

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、持ち直しの動きに弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費は一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回からの主要変更点

	前回(令和3年8月)	今回(令和3年12月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、持ち直しの動きに弱さがみられる	
鉱工業生産	持ち直している	持ち直しに足踏みがみられる	
個人消費	サービス支出を中心に弱い動きとなっている	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	
雇用情勢	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さもみられる	

1. 鉱工業生産等の動向

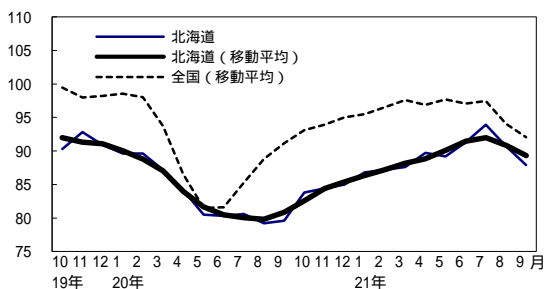
(1) 第一次産業は生乳生産、主な水産物の生産額ともに前年を上回っている。

7 - 9月期には、生乳生産は総量では1,078,987t と前年比3.2%増となった。主な水産物¹の生産額(主要9港)は、ほっけ等が増加したため、前年比52.7%増となった。

(2) 鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。

7 - 9月期の鉱工業生産は、鉄鋼が増加したこと、食料品が増加したこと等により、前期比0.8%増となった。

鉱工業生産指数



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北海道の最新月は速報値。

2. 全国及び北海道の太線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
食料品	25.9	1.6	4.8	3.3	5.1	3.9
パルプ・紙	13.1	1.2	2.8	7.5	3.4	3.6
電気機械	9.1	8.3	4.8	0.2	1.5	7.5
鉄鋼	7.9	6.9	28.9	28.6	2.8	5.0
化学・石油石炭製品	7.6	25.4	8.8	8.5	15.7	7.6
鉱工業	100.0	3.3	0.8	2.8	3.4	3.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

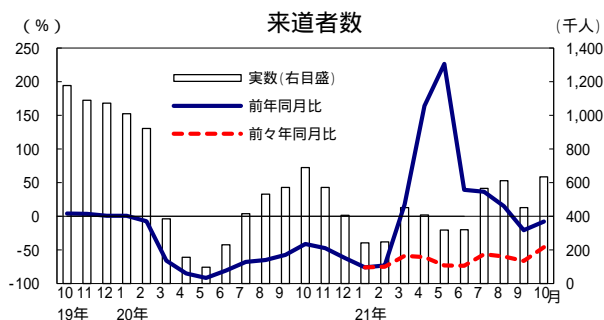
2. 7 - 9月期、9月は速報値

¹主な水産物は、するめいか、さんま、すけとうたら、たこ類、ほっけを対象魚種とする。

(1) 北海道

(3) 観光は持ち直しの動きがみられる。

7 - 9月期の来道者数は、航空機の利用者増などがあり、前年同期比 7.3%増（前々年同期比 61.0%減）となった。月別では、7月に前年同月比 36.4%増（前々年同月比 56.5%減）、8月は同 15.0%増（同 60.1%減）、9月は同 21.1%減（同 66.5%減）となった。10月は同 7.9%減（同 46.1%減）となった。



(備考) 北海道観光振興機構調べ。

2. 個人消費の動向

個人消費は一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7 - 9月期は前期比 1.6%減となった。月別にみると、7月は前月比 0.2%減、8月は同 3.1%減、9月は同 1.9%増となった。

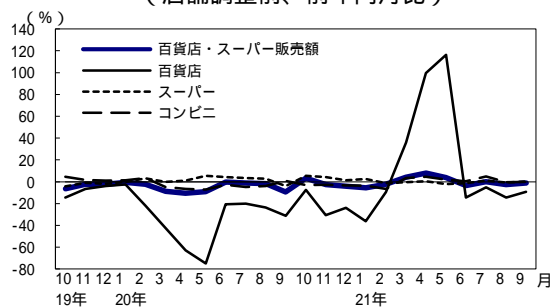
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7 - 9月期は前年同期比 1.3%減となった。月別にみると、7月は前年同月比 0.1%増、8月は同 2.7%減、9月は同 1.3%減となった。

百貨店は、7 - 9月期は前年同期比 9.4%減となった。

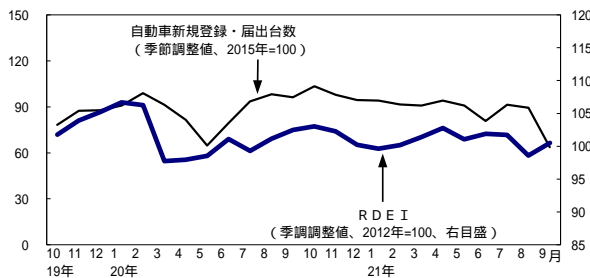
スーパーは、7 - 9月期は同 0.1%増となった。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2021年7 - 9月	2021年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	1.6	0.2	3.1	1.9
百貨店・スーパー(*2)	1.3	0.1	2.7	1.3
百貨店(*2)	9.4	5.0	14.4	9.1
スーパー(*2)	0.1	1.1	0.8	0.1
コンビニ(*2)	1.5	4.8	0.3	0.1
乗用車(*3)	16.0	5.4	5.8	33.8
(季節調整値)(*3)	8.0	13.1	2.3	28.7

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

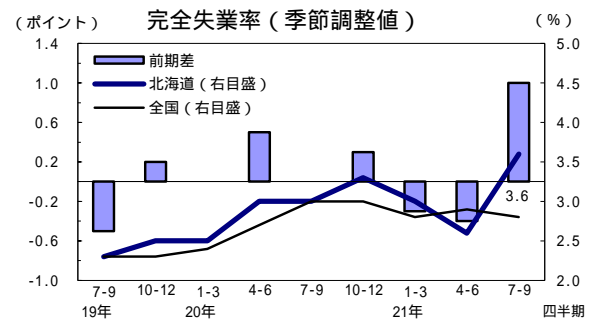
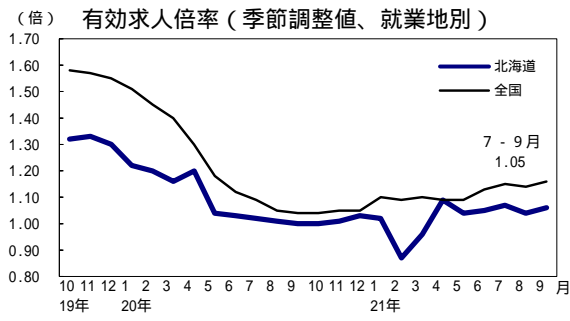
2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数 上段は前年同期(月)比 (%)

3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さもみられる。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を上回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査 (令和3年10月調査) 景気判断理由の概要

1. 北海道

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・緊急事態宣言が解除されたことで、航空機利用の団体旅行が回復し始めた。また、観光需要喚起策として、北海道の新しい旅のスタイルや各市町村の支援策も再開され始めており、アフターコロナに向けた動きが拡大してきている(旅行代理店)
			・自動車業界において生産遅れがみられるものの、新車受注は前年並みで推移している。中古車は下取り台数が減少しているが、限られた車両のなかで販売をつなぐことができおり、前年並みで推移している(乗用車販売店)
			・10月から営業を再開しているが、元の状態に戻るような動きはみられない。営業しないよりは営業した方が良いことは確かなため、少しでも前向きに考えていきたい(スナック)
	企業 動向 関連		・売上は3か月前と比べて特に変わっていない(食料品製造業)
			・新型コロナウイルスの感染状況が一旦落ち着いたことで、これまで留保していた案件の再始動やコロナ禍後の環境変化に対応した新規案件など、足元の客の動きが活性化している(通信業)
雇用 関連		・仕事量の少ない状況は変わっておらず、景気はやや悪い。改善の兆しもみられない。また、新型コロナウイルスの影響で工場の生産遅れが生じ、製品を思うように入手できないことから、建設工事に遅れが出ている。工期が伸びても、管理費などは据置きのため、人件費が余計に掛かることが追い打ちをかけている(建設業)	
		・最近の傾向として、有効求職者数の高止まりがしばらく続いていることが挙げられる。状況が変わっていないことから、失業が長期化していることを懸念している(職業安定所)	
その他の特徴 コメント			・新型コロナウイルスの影響を受けた業界の求人数が回復しつつある。飲食店、小売、宿泊などが様子見をしながらも募集を開始し始めた。ただ、人材の動きがやや鈍く、求職者が様子見している様子もうかがえる(求人情報誌製作会社)
			：緊急事態宣言が解除されたことで、旅行や文化サークルなどが再開されるようになっており、人の動きが活発化している。それに伴って客の来店頻度も高くなってきている。関連商材の売上も増えている(美容室)
			：緊急事態宣言が解除された直後から、夜間のオーダーが増えてきている(タクシー運転手)
先行き	家計 動向 関連		・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いて推移することになれば、人の動きが今よりも活発になり、景気もやや良くなる。特に高齢者の動きが回復し始めると状況は改善する(百貨店)
			・気温が低くなることで、冬物家電に動きが出てくることを期待している(家電量販店)
	企業 動向 関連		・数は少ないが、新規案件の話が聞こえるようになってきていることから、今後の景気はやや良くなる(その他サービス業[ソフトウェア開発])
			・冬期間は今と同じような状況が続くとみられるが、来春以降になれば市場の動きが活発になるとみられる(その他非製造業[鋼材卸売])
	雇用 関連		・新型コロナウイルスの終息状況によっては、飲食店などのサービス業や生産ライン、倉庫業などの求人数が増えることが見込まれる。日々、企業への求人アプローチを行っていくなかで、企業からの引き合いが増えている傾向もみられることから、企業の営業活動再開のスピードが速まることも期待できる(人材派遣会社)
その他の特徴 コメント			：予約客に動きがみられ始めていることから、今後の景気はやや良くなる(高級レストラン)
			：新型コロナウイルスが終息してきているものの、ガソリンや電気料金、ガス料金、各種食品の値上がりなど、家計を圧迫するような要因が顕在化していることから、今冬にかけて消費者の節約ムードが強まる懸念される(スーパー)

(D I) 現状・先行き判断D I (北海道)の推移(季節調整値)

